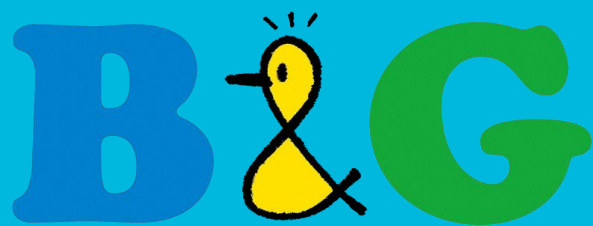


先進的海洋センター整備事業について

南島原市加津佐B&G海洋センター



B&G財団助成事業



本日の説明内容

はじめに ～海洋センター艇庫の現状と課題～

01. 先進的海洋センター事業とは（B&G財団）

02. プロジェクト コンセプト

03. 施設概要

04. 展開するプログラム

05. 目標

06. スケジュール



はじめに

～海洋センター艇庫の現状と課題～



海洋センター艇庫のこれまでの役割

- ・ カヌーやヨットを安全に保管し、海洋教育や体験活動を支える拠点施設
- ・ 子どもたちが海と触れ合い、自然を学ぶ実践的な教育の場
- ・ 地域住民の健康づくりや、海を通じてつながる交流の拠点
- ・ マリンスポーツ教室、各種大会、イベントの開催
- ・ マリンアクティビティを活用した観光資源

時代の変化とともに見えてきた課題

- ・ 海離れや人口減少に伴う利用者の減少
- ・ 設置から40年以上経過したことによる施設の老朽化
- ・ 活動が天候に左右されやすく、夏のシーズンに限定される
- ・ スタッフの人材不足
- ・ 活動内容に応じた施設機能の不足
- ・ 地域コミュニティの希薄化
- ・ 海洋ごみ問題

これからの時代に求められる施設の機能

- ・ 海に慣れ親しむきっかけとなる、すべての人が利用しやすい開かれた施設
- ・ 持続的な施設運営のための、環境にやさしく維持管理が容易な施設
- ・ 年間を通じて天候に左右されず、様々な形で利用できる施設
- ・ まちづくりや海に関わる人材育成の拠点となる施設
- ・ 様々な体験活動や学習ができる機能を有した施設
- ・ 地域住民が気軽に立ち寄れ、地域活動や世代交流の場となる施設
- ・ 環境問題を身近なものとしてとらえ、体験を通して学べる施設

先進的海洋センター整備事業への応募

艇庫は長きにわたり、前浜を拠点に地域の方々が海に慣れ親しむ施設として、様々な役割を果たし地域に貢献してきましたが、時代の変化とともに、全国的な海離れによる海水浴客や施設利用者の減少、また、施設の老朽化など様々な課題が顕在化してきました。

先進的海洋センター整備事業の募集は、本市が抱える課題を解決し、すべての人に開かれた施設として、さらに発展・進化していくための大きなチャンスととらえ、今回の応募に至りました。

01

先進的海洋センター事業とは



先進的海洋センター整備事業とは...

日本は、古来から海からの恩恵を受けて発展してきたが、昨今では、海水浴客の減少、マイクロプラスチックに代表される海洋ごみ、海水温の上昇など、様々な問題が起こっている。

また、海洋センター整備時から40年が経過し、自然環境や人口構成、産業構造など、様々な社会環境が変化してきた。

このような現状を受け、B & G財団では海を次世代に引き継ぎ、地域の持続可能な発展に寄与できる従来の施設を超えた新たな海洋センターが必要との考えのもと、全国の海洋センターの“FRONTLINE”となる先進的海洋センターを日本財団の助成を受け整備することとした。

先進的海洋センターの目指すもの＝最先端の海洋センター

①革新を作る

事業開発や新規事業の実践を行う拠点

②海興しを行う

海に親しみ海を学ぶメソッド・スキームを実行、検証する拠点

③人材を育成する

“革新”と“海興し”を発信し、地域の発展に寄与できる人材を育成する拠点

01

企画提案型助成事業として公募

先進的海洋センター整備事業は、各地域の海に関する環境や文化歴史などの海洋資源が異なることから、従来の海洋センターとは異なり、施設仕様や規模をB & G財団が決めるのではなく、整備を希望する自治体が「革新を作る・海興しを行う・人材を育成する」3項目を実現できる先進的海洋センターを自由に考案する企画提案型の助成事業として実施。海洋センター所在378自治体を対象に公募した。



5 自治体からの申請（南島原市を含む）



先進的海洋センターが目指す方向との親和性、計画の実現性、実施プログラムの先導性などを視点に選考

01

南島原市を選考した理由

- 利用水面である「前浜海水浴場」が自然環境に優れ、安全性の高い海岸であること
- 島原半島は、ユネスコ世界ジオパークに認定されるなど全国的にも有名であり、様々な周辺施設とも連携した事業展開が可能なこと
- 島原半島にはフェリーを使うことで熊本県からもアクセスでき、宿泊施設も整備するため、広域的な施設利用が期待できること
- 長崎大学や島原翔南高校との連携があり、教育機関と協働した人材育成と海洋教育プログラムの開発が可能なこと
- 体験だけにとどまらず、アートや教育などの分野からも海を楽しむ計画であり、年間を通じた活動ができること
- 海興しには欠かすことのできない県内の海洋に関する意識調査がすでに完了していること
- 設置2カ所の海洋センター（加津佐・西有家）の運営・活動状況が全国の海洋センターの中で最高評価となる特Aを受けていること
- 先進的海洋センター整備を希望する加津佐海洋センターでは、体験型の郷土教育や子育て支援活動、障がい者でも海で遊ぶことができるユニバーサルビーチなど、多様な事業を数多く展開していること

企画提案プランに独自性があり、実現可能性が高く、地元資源を活用している点を高く評価した。

01

B & G財団の支援

- ① 先進的海洋センター施設整備及びソフトウェア開発に係る費用助成

総事業費：約10億8千万円

B & G財団助成金：10億円(上限)

- ② 施設の設計や備品整備、ソフトウェア開発、実施事業等への助言・監修



**全国454カ所の最先端となる広域利用可能な
海洋センターの誕生へ**

01

02

プロジェクト コンセプト

プロジェクト コンセプト

「ウミダス“海+”」 ～誰もがいつでも海に会える場所～

海に関する県民意識調査を実施したところ、海は「観るもの」という意見が大半を占めました。

便利な日常から自然がどこか遠い存在となり非日常化したことが、海離れや環境問題の大きな要因だと考察されます。

しかし、人間は、海や自然から与えられる様々な恵みの恩恵を受け、共に生きることで、豊かな暮らしができています。

今、海洋県長崎の人間としてもう一度真剣に「海」に向き合い、海を知り、そして多くの人に伝えることで、新たな地域活動や創造性を「ウミダス」ことこそ、海離れを解消する最も大切なことであるという考えに私たちは至りました。

“うみだす・生み出す・産み出す。人を、知恵を、想いをうみだす。

気づきと行動をうみだす。

新しい臨海エリアをうみだす。

そして、つながりを、次を、うみだす“



南島原市の取組みを達成するために

02

1,海を学ぶプラットフォームを“ウミダス”

子どもから大人、企業・行政・大学など様々な人が集う、
海のプラットフォームとして先進的海洋センターを整備します。

先進的海洋センター

大学・民間企業、団体・行政
☆海洋人材の育成サポート
☆地域づくりのノウハウ共有
☆知識・実証実験の場として



現在の取り組み：一過性の体験ではなく小～高校までをサポート

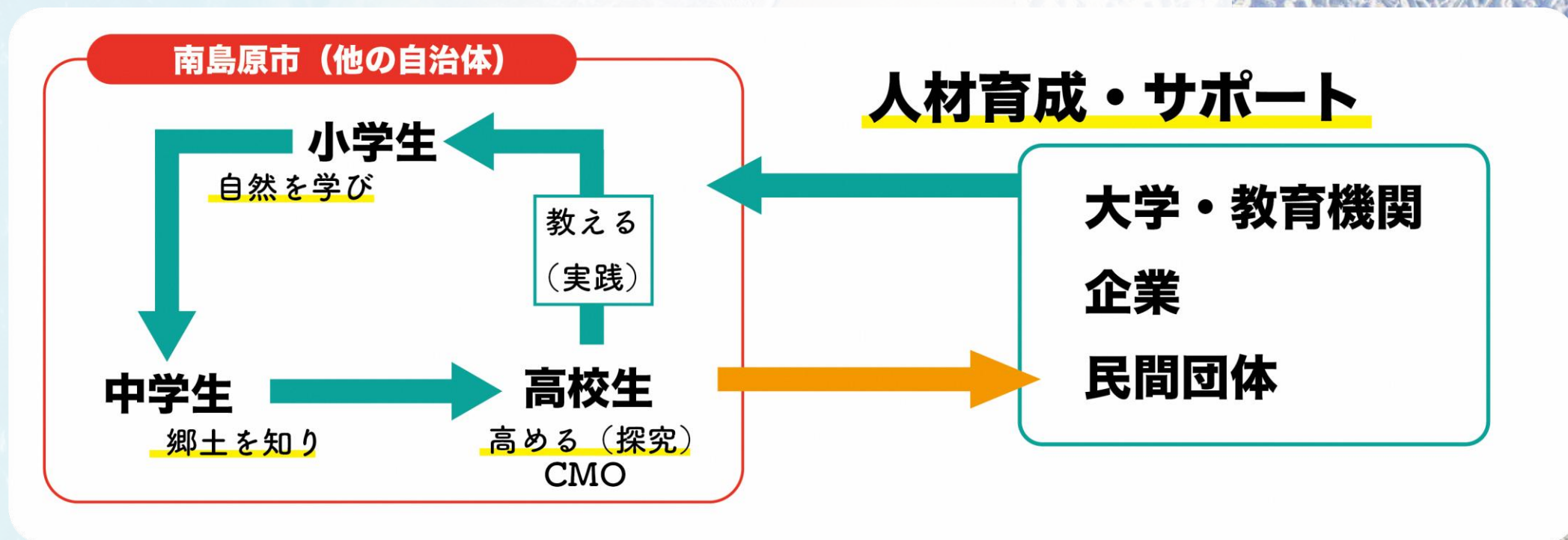
小学生：自然体験を通じた郷土教育のスタート（導入）
↓
中学生：総合的学習などを通じた地域課題の学習（WG）
↓
高校生：探究学習を通じた地域課題の解決（CMO 育成）

海のプラットフォーム

南島原市の取組みを達成するために

2,地域を活かす人材育成と、循環を“ウミダス”

小・中・高校生の活動に、様々な団体からのサポート・人材育成が加わり、自然を活かし地域を創る人材育成の循環をうみだします。



この取り組みにより“ウミダサレル”効果

3,人材育成、海興しにより新たな南島原市の形を“ウミダス”
海と人をつなぐ、最先端の海洋センターへ

02

交流人口の拡大

先進的海洋センターで行われる活動により
様々な人の流れが生み出される。

=

学生（CMO）× 大学 × 地域 × 企業

- 学生：海をテーマとした活動（イベント・地域づくり活動）
- 民間：海辺の産業の活性化（地域・海のブランド化、起業）
- 行政：まちづくり・観光、移住定住の促進、空き家活用など



海を通した地域おこし

||

“海おこし”

- 地域課題に取り組む人材（プレイヤー）が増え、活性化。
- 地域産業の発展、出店・起業など、地域消費の向上・活発化。
- 人口減少の低下、移住定住の促進、子育て世代の増加など。

03

施設概要



艇庫機能を含む複合施設として整備し、これまでの活動に加え、新たな海洋教育、環境保全及び海に関わる人材育成を実現するための機能を有した、誰もが気軽に利用でき、継続的に海と関わる場の創出を目指します。

「ウミダス”海+”」海洋体験・教育のソフトプログラムを包み込み、地域の日常と共に未来を生み出していく「場」となります。

- 海洋センター複合施設整備

艇庫と女島ハウス跡地に、新たな艇庫と体験交流棟を有する複合施設を整備

- 宿泊棟整備

バンガロー跡地に、新たにバンガローを整備



※画像はイメージ案です。

○新艇庫の主な機能

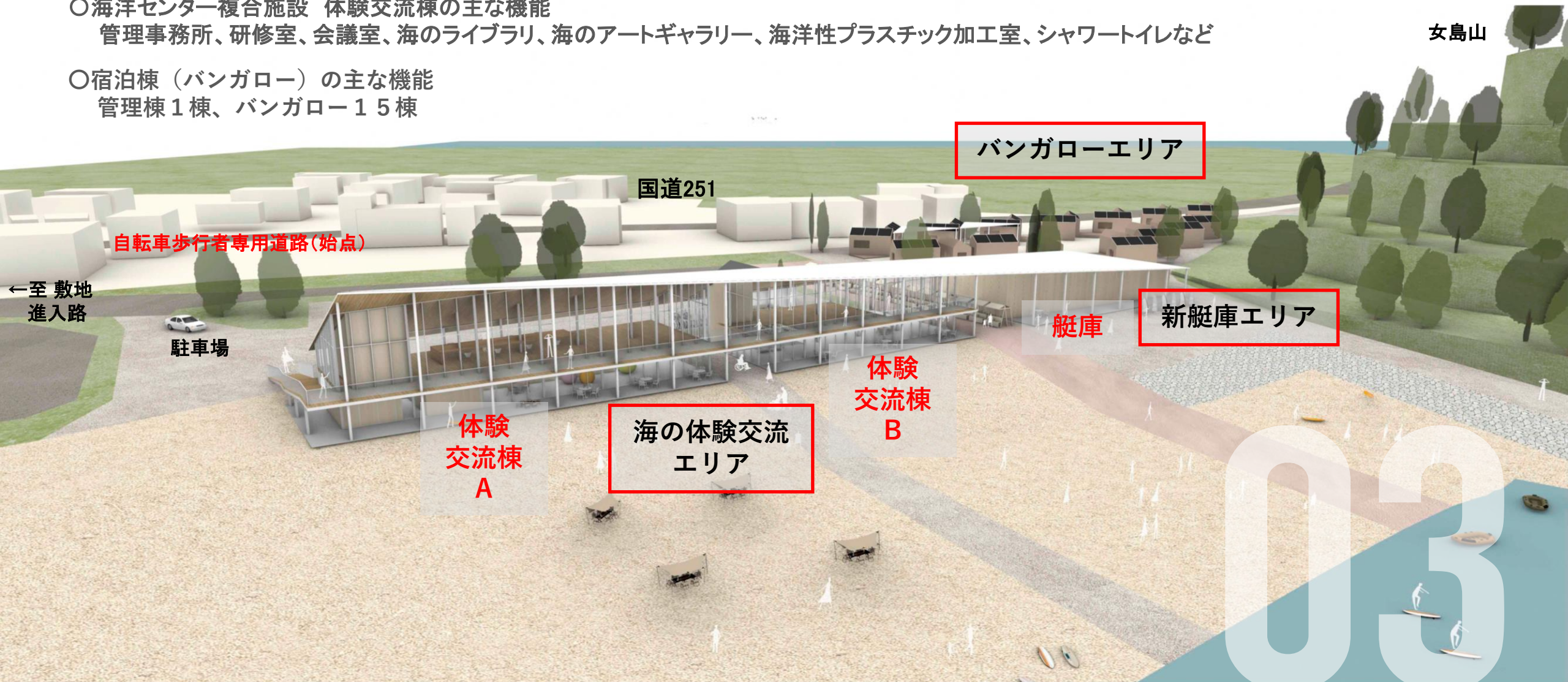
艇庫倉庫、受付、休憩スペースなど

○海洋センター複合施設 体験交流棟の主な機能

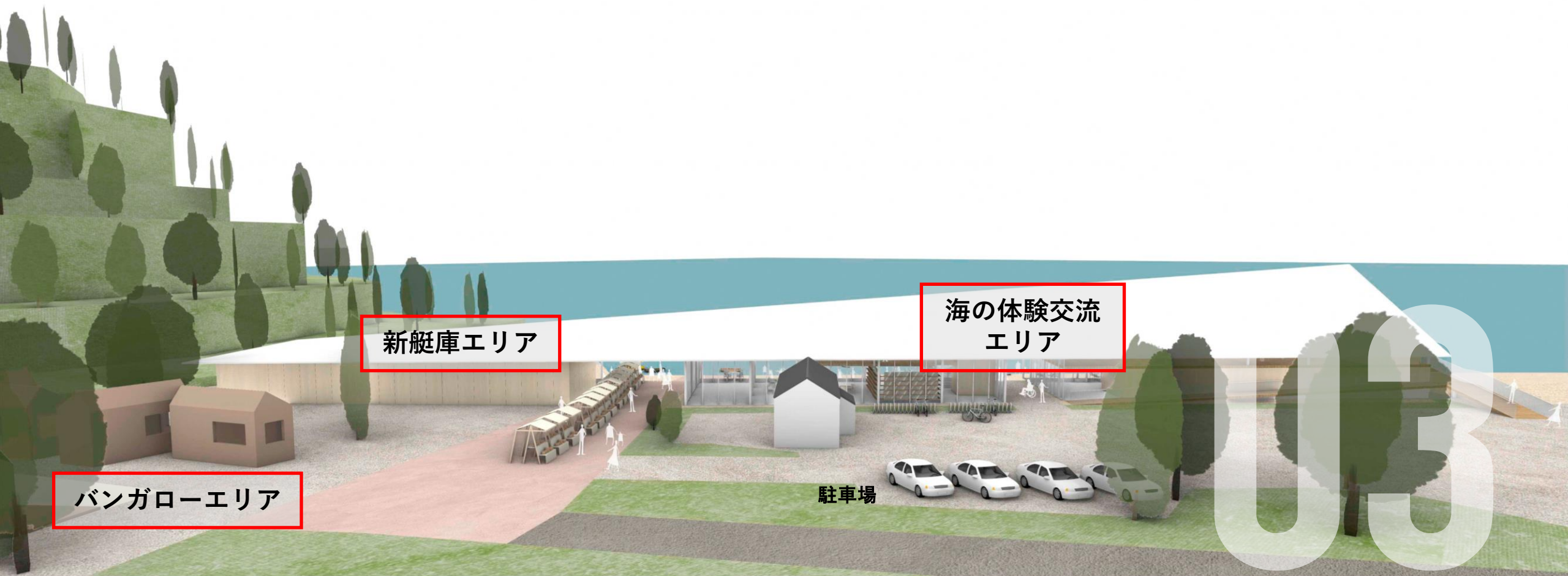
管理事務所、研修室、会議室、海のライブラリ、海のアートギャラリー、海洋性プラスチック加工室、シャワートイレなど

○宿泊棟（バンガロー）の主な機能

管理棟 1 棟、バンガロー 1 5 棟



※画像はイメージ案です。



※画像はイメージ案です。

配置イメージ図

DESIGN MASTER PLAN

S=1:500



03

04

展開するプログラム

海おこしを実現するための6つの事業



1. 海洋教育プログラム

海洋教育プログラムの構築

① 海洋環境の探求学習プログラムの開発

新たな施設を整備することで、これまでできなかった、大学や学校等と連携し、誰もが気軽に海の学習ができるプログラムを開発し、他の地域への波及を目指します。

（環境DNA、潮流・洋上風力発電の体験、など）

② 宿泊を含めた海洋教育の受け入れ

これまで宿泊施設が不足していたため、バンガローを整備することで、南島原市ひまわり観光協会（農泊体験）等と連携し、修学旅行や観光客の集客に向けた、様々な事業を展開し、南島原市の魅力発信につなげます。



海洋ごみ問題の解消に向けた取り組み

①海洋ごみ問題に取り組む機会の提供

海洋ごみ問題を身近な問題としてとらえ、長崎大学と連携した海洋ごみプロジェクトの体験活動など、気軽に海を学べるライブラリ機能を施設に設置するなど、「海と人」の共生プログラム体験を提供します。

OMNI 海ごみプロジェクト



②海洋性プラスチック加工室の設置（環境×Design）

楽しくわかりやすく学べる方法として、海洋性プラスチック加工室を設置し、海洋ごみを再生する循環システムを整えます。海洋ごみ問題の新たな解決方法を広く周知します。



人々を海につなげる活動

①ユニバーサルビーチ環境の整備

すべての人が安全安心に利用できる施設として、障がいなどの理由で、海に行くことができない、海水浴の経験がない人へ、海の体験を提供する環境整備・指導者を育成し、日常的かつ安全に海に触れる環境を整えます。

②海おこしに関するシンポジウム・勉強会の開催

長崎大学・長崎海洋産業クラスター協議会、民間企業と連携し、海を起点とした地域づくりに向けて、海洋人材育成に関するシンポジウムや、学生を対象とした勉強会などを実施し、海の力や可能性を見直し、環境・教育など、様々な視点から海を考える機会を創出します。



2.人材育成プログラム

CMO(Chief Marine Officer) 育成プログラム

CMO（チーフマリノオフィサー）とは、子どもから大人を対象に、海洋環境問題や海と共生するアイデアを考案・実践し、海に関わる力を育成するものです。

本施設を拠点とした地域共創活動を通じて認定する制度を設け、協力企業団体とCMOが連携し、海に関わる事業の企画・実施、情報発信を行う「海」を伝える人材育成事業です。



高校生と考え、動く“みんなのウミダス”活動

①経済活動に取り組む人材の育成

民間企業・専門家・地域住民と共に「海」を起点とした地域活性化のための企画（イベント・事業開発など）を行います。

②広報活動に取り組む人材の育成

「#海ってなんだ？」をキャッチフレーズとした広報プロジェクトを実施。海に関する新たな向き合い方を提案し、海おこしや、地域活性化事業の広報として、情報発信を行います。

③インターンプログラムの構築・受け入れ

学生向けの海の仕事体験などのインターンプログラムを企画し、海に関する様々な人材交流の場として、本施設を活用します。



04

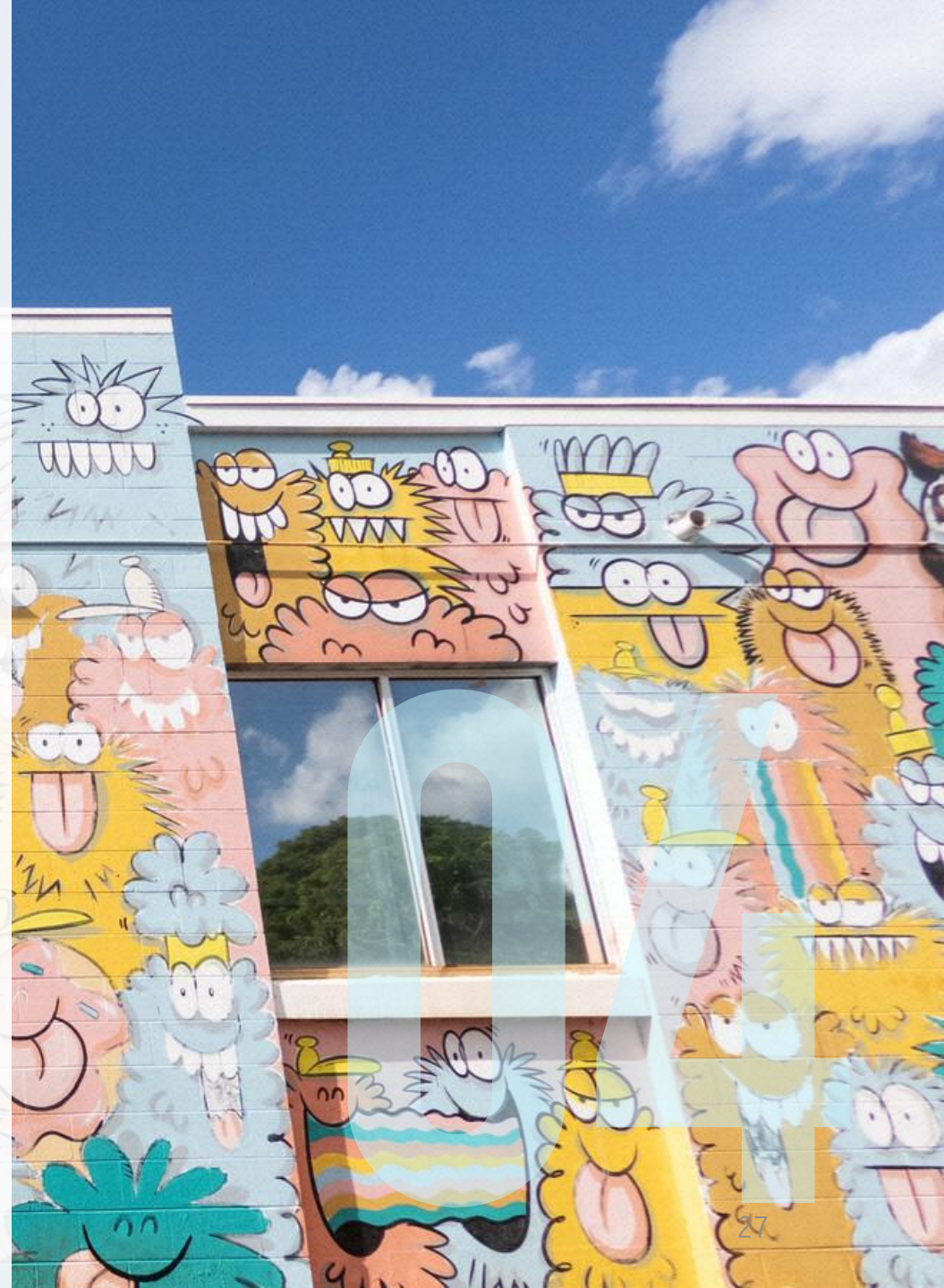
3.アートと海洋の共創

海とアートを結びつけ、海と共に生きる新たな視点と文化を創り出します。

- 海洋性アートを中心とした、アートギャラリーの設置
- 海と郷土の文化×アート作品の制作
- 民間アート事業者と連携した海洋環境保全・教育活動
- ビーチアートイベントの開催

4.地域活性化プログラム

- サイクルツーリズム、ユニバーサルツーリズムなど、多様なツーリズムとの連携
- 事業創造型、課題解決型、親子体験型などの様々なワーケーションの形を提案
- 地域のお祭りや、ローカルマーケットの開催



5.アクセス改善に向けた官民連携

- 相互誘客のための、隣接する市との連携
地域のストーリー（歴史・生活・文化・風土など）を
軸とした体験型観光コンテンツの作成
- シャトルバスなどによる実証運行の実施

6.電子地域通貨との連携

- 南島原市デジタル地域通貨ミナコインの活用
海洋体験参加や、地域の賑わい事業などへの参加向上
を目的としたデジタル地域通貨の活用



05

目標



【定量目標】

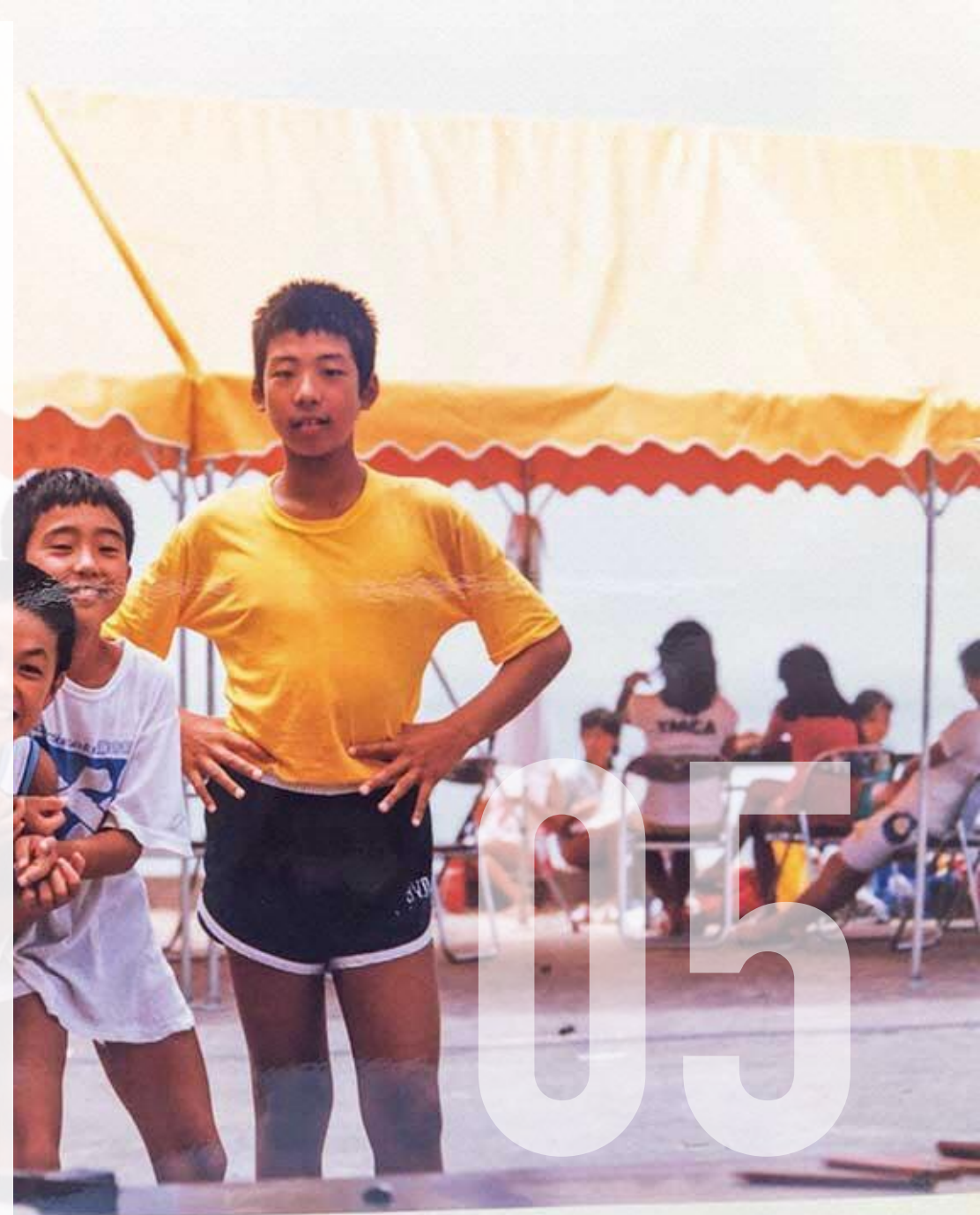
- 施設来訪者数：45,000人
- 臨海学校及び、修学旅行受け入れ：10校以上
- CMOプログラムによる人材育成：30名以上
- 地域連携事業参加事業者数（団体）：15団体
- 海洋保全活動に関わる事業の実施：年間5回以上
- ユニバーサルビーチ年間参加者数：100名以上
- オフシーズンのマリンスポーツ体験の実施：5回以上
- 大学、高校など海に関わる地域連携事業参加者数：70名以上



1984年前浜海水浴場

【定性的目標】

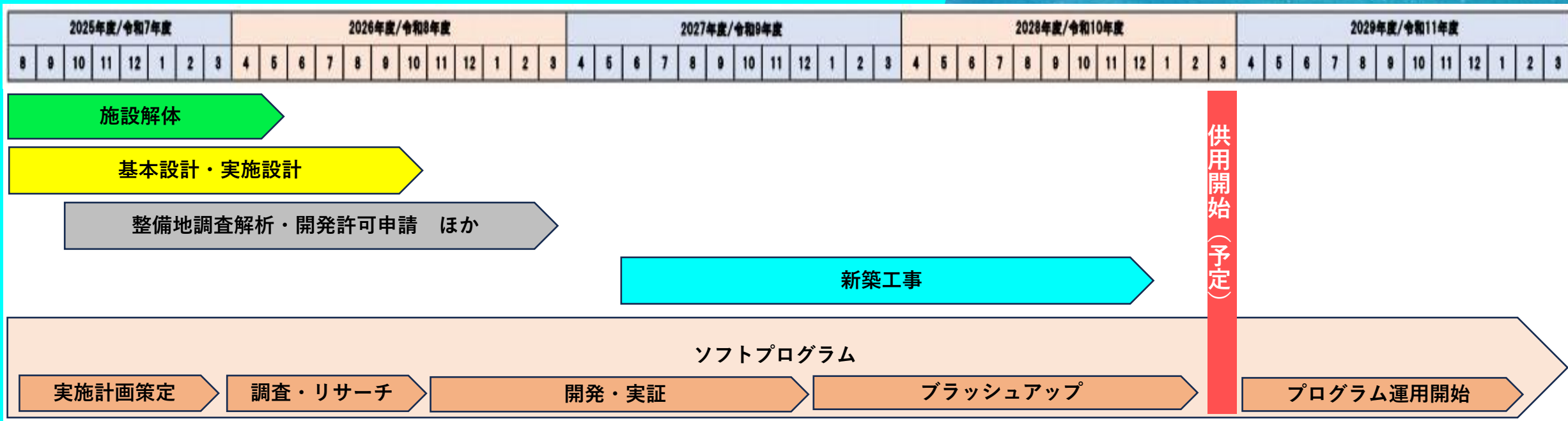
- 誰もが海に親しみ、学び、考える、地域に開かれた海洋学習の拠点づくり
- 子どもたちが地域に誇りを持ち、帰ってきたくなるまちの実現
- 海洋教育と人材育成による、海に携わる人材の増加
- 時間をかけても訪れたいくなる価値ある場の創出、および南島原市の認知度向上
- 民間との連携による、地域産業や地域消費の活性化
- 人口交流の拡大による、雇用創出や移住定住促進
- 全国の海洋センターへの海興しの波及



06

スケジュール

供用開始:2028年度(令和10年度)末予定



ありがとうございました。

